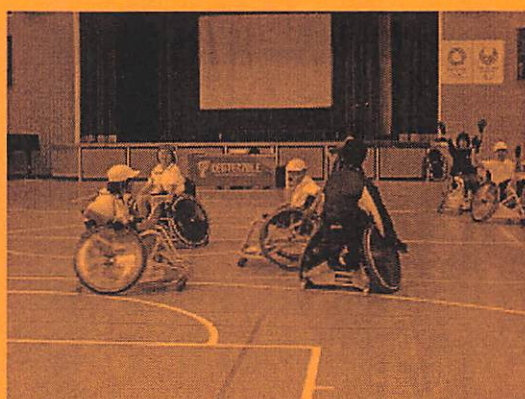


令和元年度 調布市教育シンポジウム

「調布市の障害者理解教育の推進」



調布市教育委員会

令和元年度 調布市教育シンポジウム 次第

日時 令和2年1月18日(土)
午前9時30分～11時30分
場所 調布市文化会館
たづくり12階 大会議場

テーマ 調布市の障害者理解教育の推進

司会・進行 調布市教育委員会 指導主事 石津 孝介

1 開会あいさつ

調布市教育委員会 教育長 大和田 正治

2 施策紹介 「調布市教育委員会の取組」

調布市教育委員会 指導主事 岡村 直樹

3 学校の取組紹介

(1) 「障害者理解教育」飛田給小学校車椅子バスケ等の授業

調布市立飛田給小学校 主任教諭 岩田 順子 先生

(2) 「特別支援学級と通常学級との交流・共同学習の取組について」

調布市立富士見台小学校 校長 内藤みゆき 先生

(3) 「特別支援学校と通常学級との交流について」

調布特別支援学校特別支援教育コーディネーター 鈴木 裕子 先生
調布市立若葉小学校 教諭 松原ひろ夢 先生

4 講演 「共生社会の実現に向けて」

現役車椅子バスケットボール選手による講演や選手との座談会

協力：日本車いすバスケットボール連盟

5 閉会あいさつ

調布市教育委員会 指導室長 執行 純子

パラハートちようふ 2020 ～つなげよう、ひろげよう、共に生きるまち～

調布市は、パラリンピックイヤーである令和2年の1年間を通して、このキャッチフレーズのもと、共生社会の実現に向けて取り組みます。

「パラハート」とは、「市内外の多くの方々がさまざまな障害に対する理解を深め、一人一人が寄り添う心を持ち、手を取り合って暮らせる共生社会を実現したい」との思いを込めたキャッチフレーズです。

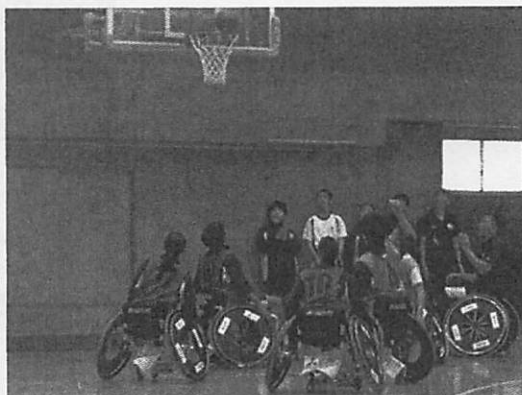
調布市の障害者理解教育の推進

令和2年1月18日（土）
令和元年度調布市教育シンポジウム

障害者理解

- 障害の有無に関わらず，共に力を合わせて生きる共生社会を実現するため，障害者理解の学習・体験や障害者との交流を通じて，多様性を尊重し，障害を理解する心のバリアフリーを子どもたちに浸透させる。

（東京都教育委員会ホームページ）



調布市の特別支援教育と障害者理解

共生社会の実現

● 障害者理解

障害の有無に関わらず、共に力を合わせて生きる共生社会を実現する。

● 調布市の特別支援教育

どの子どもも、十分な教育を受けることができ、共に学び、共に生きる社会を目指す。

↓ 共生社会実現のキー

この2つを特別支援教育のキーと

調布市の特別支援教育

調布市特別支援教育推進計画

～すべての学校、すべての学級で推進する特別支援教育～

2019年度～2022年度

調布市教育委員会
2019（平成31）年3月

- 平成31年3月に、調布市基本計画や調布市教育プラン等を踏まえた「調布市特別支援教育推進計画」を策定
- 「一人一人の子どもの、それぞれのニーズに対応した教育」を基本理念とし、どの子どもも十分な教育を受けることができ、共に学び、共に生きる社会を目指す。

調布市特別支援教育推進計画（平成31年3月 調布市教育委員会）

調布市の特別支援教育

調布市特別支援教育推進計画

～すべての学校、すべての学級で推進する特別支援教育～

2019年度～2022年度

調布市教育委員会
2019（平成31）年3月

● 計画策定の視点

- ① 児童・生徒の深い理解に基づいた
指導・支援の充実
- ② 多様な学びの場の提供
- ③ 推進体制の充実

調布市特別支援教育推進計画（平成31年3月 調布市教育委員会）

調布市の特別支援教育

調布市特別支援教育推進計画

～すべての学校、すべての学級で推進する特別支援教育～

2019年度～2022年度

調布市教育委員会
2019（平成31）年3月

● 計画策定の3つの方向性

- ① 小・中学校における特別支援教育の
充実
- ② 特別支援教育を推進する体制の
整備・充実
- ③ 保護者等・地域及び関係機関との
連携の充実

調布市特別支援教育推進計画（平成31年3月 調布市教育委員会）

調布市の特別支援教育・3つの方向性

方向性 1

小・中学校における特別支援教育の充実

- 施策（1）通常の学級における特別な支援を必要とする児童・生徒の支援の充実
- 施策（2）知的障害学級における指導の充実
- 施策（3）校内通級教室における指導の充実
- 施策（4）言語障害通級指導学級、難聴通級指導学級における指導の充実
- 施策（5）特別支援学校を含む、調布市内すべての公立学校の児童・生徒に対する教育の充実



調布市の特別支援教育・3つの方向性

方向性 2

特別支援教育を推進する体制の整備・充実

- 施策（1）教職員の専門性の向上
- 施策（2）就学相談機能の整備・充実
- 施策（3）児童・生徒の社会的自立を目指した支援の整備



調布市の特別支援教育・3つの方向性

方向性3

保護者等、地域及び関係機関との連携の充実

施策（1）保護者等や地域への
特別支援教育の理解推進

施策（2）学校等及び関係機関との
連携の充実



調布市の特別支援教育と障害者理解

●調布市立学校における取組

- 1 オリパラ教育における障害者理解教育の推進
- 2 学校の教育活動における障害者理解教育の推進
- 3 特別支援学校や関係機関との連携による、
特別支援教育・障害者理解教育の推進

調布市の特別支援教育と障害者理解

1 オリパラ教育における障害者理解教育の推進

- ・手話体験 ・ガイドヘルプ体験
- ・パラリンピックについての調べ学習
- ・パラスポーツの体験及び選手による講演
車椅子バスケットボール
車椅子ラグビー・ブラインドサッカー
ボッチャ・パラサイクリング等
- ・車椅子バスケットボール日本代表の試合参観・応援



調布市の特別支援教育と障害者理解

2 学校の教育活動における障害者理解教育の推進

- ・バリアフリーの学習
- ・作業所の方の講演
- ・特別支援学級と通常の学級の
交流・共同学習



調布市の特別支援教育と障害者理解

3 特別支援学校や関係機関との連携による、 特別支援教育・障害者理解教育の推進

- ・ 特別支援学校に在籍する子どもと通常の学級に在籍する子どもの交流等（副籍制度）
- ・ 特別支援学級設置校と放課後サービス等との連携の検討



本日の教育シンポジウム

- 調布市立学校の取組紹介
 - ・ 「障害者理解教育」 飛田給小学校車椅子バスケット等の授業
調布市立飛田給小学校
 - ・ 「特別支援学級と通常の学級との交流・共同学習の取組について」
調布市立富士見台小学校
 - ・ 「特別支援学校と通常の学級との交流について」
都立調布特別支援学校・調布市立若葉小学校
- 講演・座談会「共生社会の実現に向けて」
日本車椅子バスケットボール連盟

WHEELCHAIR BASKETBALL



KAWASAKI
WSC

調布市教育シンポジウム 本日の講演にご参加くださった方々

令和2年1月18日

川崎 WSC

神奈川県川崎市で活動している車椅子バスケットボールチーム



右)
本多 正敏 選手



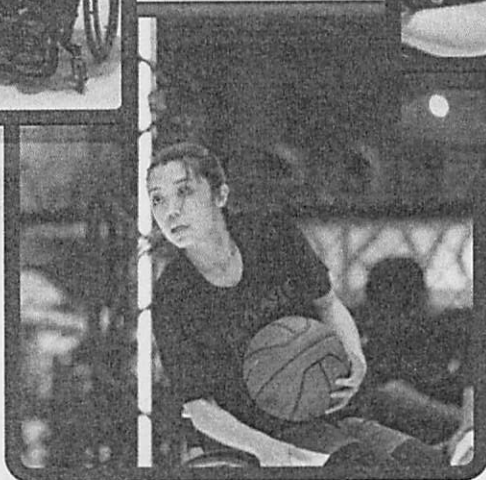
佐々木 勝也 選手

シドニー
パラリンピック
日本代表



山崎 佳菜子 選手
U-25 日本代表キャプテン

左)
齋藤 尚徳 選手
2014-2017 年度
関東選抜



齋藤 美佳 選手
兼チームマネージャー



志村 政一 選手

